

## 【大学間協定留学】 留学報告書

| 記入日  | 2025年05月29日   |
|--|---|
| 明治大学の所属学部・研究科<br>※学部・学科・研究科・専攻等                    | 文学部文学科英米文学専攻  |
| 留学(渡航)した時の学年                                       | 2年生   |
| 帰国年月日  | 2025年05月25日   |
| 明治大学卒業予定年月   | 27年3月   |
| 留学先大学について  |   |
| 留学先国   | カナダ   |
| 留学先大学  | ヨーク大学(日本語名)<br>York University(現地言語名)   |
| 現地使用言語/ 授業使用言語                                     | 英語/英語   |
| 留学期間   | 2024年08月～2025年05月   |
| 留学先大学で在籍した学年                                       | 1年生   |
| 留学先の所属学部等  | <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入)<br>※学部等名<br>日本語名: 教育学部<br>現地言語での名称: Faculty of Education<br><br><input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している<br><input type="checkbox"/> その他: |
| 形態   | <input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:  |
| 学年暦<br>※記入例:<br>1 学期: 4月上旬～7月下旬<br>2 学期: 9月中旬～2月上旬 | 1 学期: 9月初旬～12月下旬<br>2 学期: 1月初旬～4月下旬<br>3 学期:<br>4 学期:   |
| 学生数  | 55,700  |
| 創立年  | 1959  |

| 留学費用              |  |             |                           |
|-------------------|--|-------------|---------------------------|
| 留学費用項目            | A 現地通貨<br>(CAD)<br>(1 現地通貨 =<br>103 円) | B 日本円       | 備考                        |
| 授業料               | 0                                      | 0 円         | 明治大学の学費を納入                |
| 宿舍費               |  | 1,010,018 円 | Application Fee は後日返金     |
| 食費                | 1,600                                  | 円           | 自炊の場合                     |
| 図書費               | 50                                     | 円           |                           |
| 学用品費              | 20                                     | 円           |                           |
| 携帯・インターネット費       | 280                                    | 円           | Phone Box の場合             |
| 現地交通費             | 200                                    | 円           | 2 時間以内は乗り放題 (☑大学まで徒歩・自転車) |
| 教養娯楽費             | 50                                     | 円           |                           |
| 旅費(留学中)           | 5,470                                  | 円           |                           |
| 被服費               | 500                                    | 円           |                           |
| 医療費               | 20                                     | 円           |                           |
| 保険費               |  | 154,912 円   | 形態: 明治とYork               |
| 渡航旅費              |  | 144,200 円   | 帰路の航空券代は旅費に計上する           |
| ビザ申請費             | 530                                    | 円           | Medical Check が必要となったため   |
| 雑費                | 100                                    | 円           |                           |
| その他               |  | 円           |                           |
| その他               |  | 円           |                           |
| 合計<br>※現地通貨 および 円 | 8,820<br>(=908,460 円)                  | 1,309,130 円 |                           |
| 総計(A+B)<br>※円     |  | 2,217,590 円 |                           |

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

## 渡航関連

### 渡航経路

往路 出発地：羽田空港 目的地：トロントピアソン空港 経由地：ミネアポリス、デトロイト

復路 出発地：トロントピアソン空港 目的地：羽田空港 経由地：ロンドン、上海、ソウル(旅行)

### 渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社：

料金：

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社：DELTA 航空 料金：140,000

復路 航空会社： 料金：

∴合計：140,000 (復路は旅行につき割愛)

### 航空券購入方法

旅行代理店(店名： )

インターネット(サイト名：Expedia)

その他( )

## 滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)

学生寮(寮の名前：Calumet)     アパート     ホームステイ

2) 部屋の形態

個室     相部屋(同居人数 2)

3) 共有部分

バス     トイレ     キッチン( 自炊可     自炊不可)

4) 住居を探した方法：

大学からのメールに従いました。

5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

相部屋にする際は、大学のポータルサイトからルームメイトを探すことになるので、その際に生活習慣や宗教概念なども含めて確認することが必要になると思います。

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: \_\_\_\_\_ )

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: \_\_\_\_\_ )

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

危険な地区はネットで調べておいてできるだけ近づかないようにしましたが、ダウンタウンでテントの爆発に巻き込まれかけました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学のcollegeではインターネットが繋がりますが、寮では常に不安定でした。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

留学前に使用用途ごとに日本の銀行にお金を振り分けておきました。トロントでは日本の銀行からの引き出しもできるので、街中にあるTDという銀行などから引き落としました。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

服の圧縮袋は持ってきて助かりましたし、現地では見かけませんでした。私は冬から夏目での留学だったので、衣服がかさばり大変でした。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

|   |  |
|---|--|
| 1) 留学先で取得した単位数合計  | 本学で認定された単位数合計<br>※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。  |
| 21 単位   | <input type="checkbox"/> 単位<br><input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )   |
| 2) 履修登録の時期・方法及び履修制限   |  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後<br><input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input checked="" type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( )<br><input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: 教育学部は特に現地学生のための授業など制限が多かった |  |
| 3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。  |  |
| 履修した授業科目名(留学先大学言語)  | 履修した授業科目名(日本語)   |
| Canadian Language and Culture   | カナダにおける言語と文化   |
| 科目設置学部・研究科  | Department of Languages, Literatures, and Linguistics  |
| 履修期間  | Year-Term (Fall and Winter)  |
| 単位数   | 6  |
| 本学での単位認定状況  | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)   |
| 授業形態  | 本講義のみ(チュートリアル、講義形式等)   |
| 授業時間数   | 1 週間に 180 分が 1 回   |
| 担当教授  | Mansour Safdari  |
| 授業内容  | 多文化社会における差別(言語、人種、宗教)、環境問題、憲法などの様々な視点からカナダについて学びました。本講義は英語を第二言語とする生徒を対象にした講義だったので、アカデミックな論文の執筆方法や、短編小説の読み方などについても学ぶことができました。   |
| 試験・課題等  | 毎授業の課題、月に一度程度のレポート、中間試験、中間レポート、期末試験、期末レポート。  |
| 感想を自由記入   | 上記した通り英語学習者が集まっていたので、授業では各々の国でのバックグラウンドをもとに意見が飛び交いピックについてより多角的にアプローチすることができました。レポートなどは A4 で 8-10 ページを英語で執筆する必要があり、渡航前は長くても 2 ページまでしか執筆することがなかったので苦労しました。しかし戸惑った時には教授からいつでも丁寧に説明をして頂けたため、乗り越えることができました。カナダの表面的ではない文化や歴史についても深く学ぶことができるので、ヨーク大学に留学が決まった方は是非この講義をおすすめします。 |

|   |  |
|---|--|
| 履修した授業科目名(留学先大学言語)                        | 履修した授業科目名(日本語)   |
| Contemporary Japanese Culture and society | 日本の現代社会と文化   |
| 科目設置学部・研究科                                | Department of Languages, Literatures, and Linguistics  |
| 履修期間                                      | Year-Term (Fall and Winter)  |
| 単位数                                       | 6  |
| 本学での単位認定状況                                | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)   |
| 授業形態                                      | 本講義のみ(チュートリアル、講義形式等)   |
| 授業時間数                                     | 1週間に180分が1回  |
| 担当教授                                      | Cary S. Takagaki   |
| 授業内容                                      | 日本の社会と文化について歴史を振り返りながら学びました。1年間かけて学ぶ講義のため、食文化や法制度、身分制度、ポップカルチャー、教育など幅広い話題について学びました。  |
| 試験・課題等                                    | 12回の小テスト、Movie Review, Book Review, Presentation, Research Paper   |
| 感想を自由記入                                   | 他国で日本文化がどのように学ばれているのか、教授はどのように教えているのか、また自国について他言語で学ぶことで新しい学びが得られるのではないかと考えて本講義を履修しました。上記した通り歴史から始まり、日本の歴史を英語で表現されていることには若干違和感がありながらも、そこからより日本語の奥深さなどを学ぶことができました。12回の小テストと期末にあるResearch Paperには苦労しましたが、あくまでも日本についてなので、他の講義に比べるとやさしく感じました。 |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語)              | 履修した授業科目名(日本語)   |
|---------------------------------|--|
| Situated Learning and Education | 状況的学習論   |
| 科目設置学部・研究科                      | Faculty of Education   |
| 履修期間                            | Fall Term  |
| 単位数                             | 3  |
| 本学での単位認定状況                      | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)   |
| 授業形態                            | 本講義のみ(チュートリアル、講義形式等)   |
| 授業時間数                           | 1週間に180分が1回  |
| 担当教授                            | Farah Virani-Murji   |
| 授業内容                            | まず状況的学習論についての概要を学び、その他の学習理論と比較し学びを深めました。また状況学習論をもとに学びはどの様にして形作られるのか、学校教育またはその他の状況において教師は誰、何なのか、学習者はどこに位置付けられるのかについて学びました。生涯学習との関係性についても学びました。  |
| 試験・課題等                          | 授業内プレゼンテーション・アクティビティ、6回の小レポート、期末レポート。  |
| 感想を自由記入                         | 本講義では日本で典型的な教授や先生が生徒に教える受動的な学びではなく、生徒が授業を作っていくより能動的な授業が強調されていました。それゆえグループディスカッションの機会が毎授業3度以上は儲けられ、議論の内容も教育理論や哲学が大きく関わってくるとがほとんどだったので、慣れるまでは苦労しました。しかし、能動的であるが故により深い学びとなり、今後の進学先での研究でも大いに役立つであろうと考えています。また、明治大学の講義には一つの教育理論について半期かけて学ぶ講義は履修したことがなかったので、以前に学んだものについても自主的に学び直そうと思うきっかけになりました。 |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語)     | 履修した授業科目名(日本語)  |
|------------------------|---|
| What Is Education For? | 教育の意義   |
| 科目設置学部・研究科             | Faculty of Education  |
| 履修期間                   | Winter Semester   |
| 単位数                    | 3   |
| 本学での単位認定状況             | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)  |
| 授業形態                   | 本講義のみ (チュートリアル、講義形式等)   |
| 授業時間数                  | 1週間に180分が1回   |
| 担当教授                   | Farah Virani-Murji  |
| 授業内容                   | 現代社会において教育の目的や価値はどこにあるかを教授、クラスメートと共に議論を重ねました。また、古典哲学と現代哲学によって教育がどの様に捉えられ、世界とその可能性を形作っているのかについて学びました。  |
| 試験・課題等                 | 授業内プレゼンテーション・アクティビティ、4回の小レポート、中間レポート、期末レポート。  |
| 感想を自由記入                | 講義は基本的に哲学や学習理論に基づいていたので、英語でこれらを理解するには少し苦勞することもありました。しかし、本講義では教授が理論について説明をし、それについてのディスカッションの場が常に設けられていたので、講義に関する理解だけでなく、自分の捉え方を客観的に見て、クラスメートとの認識の違いを自覚し、よ理考を深めることができました。また、日本で「教育」を学んでいた時には哲学や学習理論をもとにしていなかったため、今までに学んだ「教育」はどの理論や哲学に基づいていたのか今後自主的に学んでみようというきっかけになりました。 |

|   |  |
|---|--|
| 履修した授業科目名(留学先大学言語)                          | 履修した授業科目名(日本語)   |
| Foundational Communication and Media Theory | 基礎コミュニケーション・メディア理論   |
| 科目設置学部・研究科                                  | Faculty of Liberal Arts and Professional Studies   |
| 履修期間  | Winter Semester  |
| 単位数   | 3  |
| 本学での単位認定状況                                  | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)   |
| 授業形態  | チュートリアル(60分)と本講義(120分)(チュートリアル、講義形式等)  |
| 授業時間数                                       | 1週間に180分が1回  |
| 担当教授  | Mark Hayward   |
| 授業内容  | 本講義では、コミュニケーション・メディア理論をどのように理解、解釈し他の理論からアプローチするかを学びました。その他の理論の例としては、マスメディア論、文化論、フェミニスト論、記号論、テクノロジー論、人種論、政治経済論を中心に学びました。  |
| 試験・課題等                                      | 中間試験、中間レポート、期末試験。  |
| 感想を自由記入                                     | 私は明治大学で文学部に在籍していることもあり、コミュニケーション・メディア論について学ぶのは本講義が初めてでした。本講義は現地学生の2年生向けに開講されていたので前提知識を求められることもあり苦労しました。そんな中でもチュートリアルを受け持っていたいただいたTAの方が毎講義ごとに復習の時間を設けてくれたので、学んだことを整理することができ、単位の取得もすることができました。新しい分野について他言語で学ぶのには根気が必要ですが、授業を受けるごとに上記した教育学の理論との相違点が見えてきて、自分なりに分析するなど楽しんで学ぶことができました。 |

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職     進学     未定     その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。  
(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)  
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。  
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。  
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

|              |         |                               |
|--------------|---------|-------------------------------|
| 留学開始年の<br>前年 | 1月～3月   |                               |
|              | 4月～7月   | 大学の留学相談会に参加、試験勉強、IELTS受験(1回目) |
|              | 8月～9月   | 試験勉強、選考準備、IELTS受験(2回目)        |
|              | 10月～12月 | 選考                            |
| 留学開始年        | 1月～3月   |                               |
|              | 4月～7月   | ビザ申請、取得、寮の申請、航空券購入、留学先の履修登録   |
|              | 8月～9月   | 渡航                            |
|              | 10月～12月 | 秋学期期末試験                       |
| 留学/帰国年       | 1月～3月   |                               |
|              | 4月～7月   | 冬学期期末試験                       |
|              | 8月～9月   |                               |
|              | 10月～12月 |                               |

## 留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

カナダ、ヨーク大学を留学先に選んだ理由は大きく分けて二つあります。一つ目はカナダが多文化主義国家であることです。またそれに伴い、ヨーク大学では日本人の学生に出会うことが一度もありませんでした。母国である日本人と距離を置くことは精神的に辛いこともありましたが、厳しい環境下において生活することで、自分自身を強く成長させることができたと感じています。またキャンパスでは英語だけでも 20 以上のアクセントが飛び交い、日本で習う標準的な英語とはかけ離れており、慣れるまでは時間を要しました。しかし、将来英語教員を志している自分にとっては、多種多様な英語に触れ合うことができたのは良い経験であったと感じます。二つ目の理由は、多文化主義国家であるカナダの「教育」について関心があったからです。英語教育に着目すると、日本では主に日本人教員が日本人生徒に英語を教えるという形が一般的になりますが、カナダでは様々なバックグラウンドを持つ教員、生徒が学びを育んでいます。日本のように「伝統」や「ルール」を守り固執し続ける教育と、生徒も教員も「変化」が常に要されるカナダでの教育はどのような概念、理論をもとに成り立っているのかに関心があり、カナダで一番規模の大きいヨーク大学なら私の求める学びが得られると確信し、ヨーク大学への留学を目指しました。留学というと何か楽しい旅行のように感じ取られる方もいらっしゃると思います。実際、私も五カ国ほど留学中に旅行に行ったので、留学には他国を楽しむという一面もあると思います。しかし、何か一つ学びの目標を持って留学すると、いつかの旅行の楽しさだけでなく、一生を変える学びとしての楽しさも見つけることができるのではないかと思います。私の留学報告書を読んでもくださった皆様が充実した留学生活を送れることを応援しています。